

令和元年度（2019年度）学校評価報告書

学校園名	宝塚市立 安倉 幼稚園	校園長名	山本 直子
------	-------------	------	-------

1 学校教育目標

心身ともにたくましい幼児の育成 — やる気・本気・根気 あきらめない心を培う保育実践 —

2 重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ○ 豊かな体験が広がる保育の充実をめざす ○ 家庭・地域と共に育ち合う幼稚園づくりをめざす ○ 研究・研修活動を充実させ、教師の資質向上をめざす
--

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの 学校関係者評価	
園運営	開かれた幼稚園づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域への情報発信を行う。 ・園だより、園長だより ・学年だより、学級だより ・保健だより ・ホームページ 等 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園からの配布物や降園時の「けやきタイム」、オープンスクール時のドキュメンテーション等を通し、園の取り組みや子どもの育ちについての発信に努めた。引き続き、HP の日々の更新等、園の取り組みについて保護者や地域の方の理解が得られるように努力する。 ○ 安倉音頭や太鼓、栽培活動、老人会との交流、英語、メソッド、絵本の読み聞かせ等、保護者や地域の方の協力を得て、幼児の体験を広げることができた。次年度も、打ち合わせを丁寧に行いながら継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園だよりや HP 等で地域への情報発信を丁寧にしていただけたと思う。 ○ HP や写真等を利用した情報発信は園の取組がわかりやすくよいと思う。頑張っていて継続してほしい。特に、あくらっこ太鼓など、園の特色となることは積極的に情報発信していくとよいと思う。
	子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児の成長を伝えたり、子育ての相談に応じたりする等、親と子の育ちの場としての役割を果たす。 ○ 未就園児親子への支援を行うための保育の場を提供する。 ・未就園児教室 ・園庭開放 ・子育て相談 等 	<ul style="list-style-type: none"> B A 	<ul style="list-style-type: none"> ○ けやきタイムや個人懇談、登降園後や園庭開放時に園での様子や育ちについて伝え、保護者の悩みなどに寄り添うように心掛けた。幼児の育ちや子育てに悩みをもつ保護者に対し「子育て相談」をはじめ、他の機関とも連携しながら支えていく。 ○ 新しく児童館の「子育て広場」をはじめ、未就園児親子へ保育の場の提供を行った。多くの方に知っていただくために様々な場面で周知に努める。また、在園児との交流についても積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童館への「子育て広場」への場の提供はよかったと思う。乳幼児の保護者が幼稚園の雰囲気を感じることができていた。 ○ 園児数が減少していることから、地域への広報を地域団体と協力し一緒に行っていく必要があると思う。
	危機管理 体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 危機管理マニュアルにそった定期的な訓練、安全対策に対する配慮を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車、自動車登園、吊り下げ名札の使用等安全対策について保護者に説明し徹底に努めた。次年度も、保護者への啓発を行い継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車、自動車での登園の条件を整理されたことで改善がみられるが、自転車利用のマナー等、今後も啓発を続けてほしい。
	教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師間で、日々、幼児の育ちについて話し合う機会や園内外の研修で学び合う機会を設ける。 ○ 一人一人が課題を明らかにし、自己の課題を意識しながら保育に取り組めるように行事や学期ごとに自己点検に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> B B 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園内研修会や日々のカンファレンスの機会を通し、幼児の内面や成長・課題等を話し合い保育にいかすことができた。園外の研修会にも参加し、学ぶことができた。 ○ 一人一人が課題をもち保育に取り組んだ。特に行事の前には意義や内容などについて再度検討し取り組むようにした。しかし、全職員揃って点検の時間を設けることが難しかった。今後は、行事の担当者及び一人一人の職員がしっかりと点検し、次回に引き継ぐような方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生同士が何でも話し合える関係が感じられた。今後も風通しのよい関係を続けてほしい。 ○ 若い先生方が多いが、一人一人の先生が、自分の状況に合わせて、それぞれの課題に取り組みながら保育されていることが感じられる。特に生活発表会では、各学級の特色を感じることができよかったと思う。

教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	○ 幼児の興味や関心に基づき、主体的に根気強く取り組めるような保育内容を工夫する。	B	○ 幼児の年齢や発達を踏まえながら「やってみよう」「楽しそう」と思えるような遊びや活動内容を考え、取り組んだ。また、幼児自身で遊びを發展させ、遊び込めるように環境についても工夫した。より、自由感のある遊びができるよう教師自身が柔軟性をもち取り組んで行く。	○ 各行事やオープンスクール等の機会に子どもたちの様子を参観したが、どの子どもものびのびと活動していることが伝わってきた。
		○ 「あくらっこタイム」の見直しや検証を行う。	B	○ 「あくらっこタイム」は、登園後に継続して取り組み、運動会で成果をいかした遊びを発表することができた。その中で、一人一人が目当てをもち取り組めるように工夫した。次年度も内容を検討しながら取り組みを継続する。	○ 広い園庭を利用した「あくらっこタイム」は幼稚園の特色だと思う。今後も内容を検討し、魅力ある活動として継続的に取り組んでいかれることを期待したい。
	基本的な生活習慣及び 道徳性の芽生えの育成	○ 挨拶や身辺整理、手洗い等をはじめ、園生活全般を通して、基本的な生活習慣を育成する。 ○ 葛藤やトラブルを乗り越える体験ができるような場や機会を逃さず、あきらめない心の育成に努める。	A	○ 挨拶等、教師自身が手本となり、基本的な生活習慣が定着するように繰り返し指導を行った。 ○ 保育の中で、自分の思いを言葉で伝えたり友達の思いを聞いたりすることを大切にしたい。特にトラブルが起こった際には、友達同士で乗り越える体験ができるように心掛けた。今後も、幼児が自分自身の力で乗り越える体験ができるように発達に応じた援助を行っていく。	○ 多様な子ども達への対応を丁寧に行われていることが伝わってきた。 ○ 自分の思いを自分の言葉で伝える、乗り越える等の体験は、友達や先生が側にいてくれる幼稚園だからできる経験だと思う。今後も大切にしていってほしい。
校種間連携	○ 保・幼・小・中・養護学校と交流の意義や具体的な進め方について話し合う場をもち、教師間で共通理解した上で、交流計画を実施する。	A	○ 近隣の保・小・中・養の管理職、連携担当者が定期的に連絡会を開き、情報交換や課題について話し合うことができた。また、県の接続研究に取り組むことができた。次年度も、連携、接続という意識をもち、目的、意義を理解しながら計画的に進めていく。	○ 特に接続研究で、季節、場面等をいかし交流ができた。 ○ 子どもたちの交流もより進むとよいが、先生同士の交流に大変意義があると思うので今後も続けてほしい。	
課題教育	人権教育	○ 幼児期の特性を踏まえ、幼児期にふさわしい人権意識の育成に努める。	B	○ 日々の保育、人との関わりの中で、幼児の実態・課題に応じて個々に声を掛けたり、必要に応じて、学級全体で考え合ったりする等の指導を行った。また、教師が自分自身の人権感覚を高め、言動を振り返るように努めた。飼育動物の世話等を通し、生命の尊さについても意識できるように引き続き取り組んでいく。	○ 幼児に関わる大人、一人一人の人権意識が大事だと思う。生活の中のいろいろな場面をいかして、先生自身が意識をもって指導して欲しい。
	特別支援教育	○ 幼児一人一人の課題を明確にし、教職員全員で共通理解を図り、指導を工夫する。 ○ 特別な支援を必要とする幼児を核とした学級経営を推進する。	B	○ 個別の指導計画を作成し、個々の幼児の発達、課題について共通理解し、担任と加配教諭が連携して支援に取り組むことができた。また、専門医の助言を受ける機会をもうけたことで、より幼児の発達を理解することができた。今後も特別な支援を必要とする幼児を核とした学級経営について、教職員が意識して取り組んでいく。	○ 園内の先生方が幼児の発達や課題、支援について共通理解していることが大切だと思う。今後も園の職員みんなで取り組むという姿勢を続けてほしい。
	防災教育	○ 様々な事態を想定した避難訓練等に取り組む機会を通し、教師の防災教育に係る指導力・実践力の向上に努める。	B	○ 避難訓練は、定期的に行うことができた。しかし、年度当初の計画と時期が違った訓練等があった。今後も、様々な事態を想定し、より実践的は訓練となるように取り組んでいく。	○ 防災教育は、欠かすことができないものになっている。地域でも訓練を行っているので、一緒に参加するなど利用してもらおうとよい。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 各行事や幼稚園全体の評価等に対する保護者アンケート、先生方の自己評価等、丁寧に行われていると感じる。
- 定期的に機会をつくっていただき、園の様子を聞かせていただいたり、子どもたちの様子を見せていただいたりできたのでよかった。また、行事ごとの保護者アンケートもとられ、それらに丁寧に回答され、保護者の意見も大切にされていることがわかった。

6 総合的な学校関係者評価

- 1年を通して忙しい日々を過ごされていることに感心する。しかし、各行事の機会を通して子どもたちの成長が見られ、一人一人が自信をもって生活していると感じる。4月からの1年間の成長を実感する。
- 複雑化する社会情勢の中、子どもたち、保護者一人一人に対応することは大変だと思う。仕事をされる保護者の方も増えている中、預かり保育も含め、丁寧に関わってもらっていると感じられる。一つ一つの行事を通して子ども達の成長を実感することができた。今後は、母親の居場所や「母親育ての場」としての存在を期待したい。